〔編集後記〕

第85巻４号は，学術大会１編，英文原著２報，症例報告（英文）１報，医学研究院５領域からの研究紹介，海外だより１編，らいぶらりい１編，千葉医学会例会報告２編の構成でお届けいたします。

英文原著２報は，姿勢制御と加齢に関する研究論文です。Yumi Asano等による“Static postural control with aging in a vertical direction and on a horizontal plane”は，静止起立位の足圧中心を記録し，移動距離・面積ともに年齢と有意な相関があることを報告しています。Yasufumi Kasagi等による“Effect of Aging on the Vibration of Human Body in the Vertical Direction during Quiet Stance”は，立位鉛直方向振動と加齢の相関を1,000人規模で解析し，５～８Hz帯域の鉛直方向振動が加齢変化をよく反映することを見出しており，転倒リスクの指標としての有用性を報告しています。転倒は時として高齢者に重篤な結果をもたらしますが，高齢者の転倒防止・予防にこれらの知見が応用されることを期待したいと思います。

Junichi Nakamura等による英文症例報告“Osteosynthesis for hip fracture in a 107-year-old man: a case report”は，世界最高齢と考えられる大腿骨転子部骨折の手術例の報告です。

研究紹介では，神経内科学，遺伝子制御学，耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学，腫瘍内科学，先端応用外科学から教室の紹介，各領域での研究トピックを紹介して頂きました。個々の研究発表だけでは伺い知ることが出来ない各領域における研究の全体像をそれぞれの代表者が書いて下さっています。千葉大学医学研究院の現時点におけるスナップ・ショットとなっています。

海外だよりは，米国オハイオ州シンシナティ大学の外科学研究部門に留学中の酒井望先生の「シンシナティ留学記」です。米国らしい“from laboratory to battlefield”という言葉の紹介，オバマ大統領就任時の当地の様子など興味深く読ませて頂きました。

らいぶらりいでは，医学史に造詣の深い石出猛史先生による「ビッグ・ファーマ－製薬会社の真実」と「怖くて飲めない！－薬を売るために病気はつくられる」のご紹介です。私の専門領域であるウイルス学分野においても，ワクチン等の戦略において『病気は作られる』ということを痛感することがあります。最近の出来事でいえば，麻疹の流行，インフルエンザ・パンデミックに対する行政あるいは一般社会の判断を冷静に一歩引いて客観視することが大学等の研究者の役割であることを痛感しています。石出先生のおっしゃる「医師は公正なレフェリーでなくてはならない」というご意見には同感です。

本号を充実した内容でお届けできましたのも，千葉医学会会員の日頃のたゆまぬ研鑽のお陰であると感謝し，会員諸氏の益々の御発展を祈念申し上げます。

（編集委員　白澤　浩）